言語表現法	1年・前期	1単位	講師 原田 桂
科目カテゴリー	人としての教養	科目ナンバリング	31220111

1. 授業のねらい・概要

医療現場において、正確かつ確実に用件を文章化する能力や伝達する対話力は必要不可欠である。そこで、基礎的な文章のルールを確認しつつ、明確に表現するための日本語表現能力の向上を目指す。さらに、論理的思考を用いて文章の構造やテーマを探る読解力を磨き、それを自らの文章によって表現できるようにする。

2. 到達目標

1. 多角的視野で物事を捉えつつ、明確に表現するための基礎的な文章表現のルールを確認する。
2. 文章表現の基盤となる発想とボキャブラリーの拡充を図る。
3. 媒体の違った表現を文章化し、それを他者へ正確に伝える能力を身に付ける。
4. 様々なシーンに対応できる敬語表現を習得し、正確にやりとりができる対話力を身に付ける。
5. 様々な言語表現を通して、背後にあるテーマや構造を論理的思考へと発展させ、それを文章で表現できるようになることを目指す。

3. 授業の進め方

〈読む／書く〉〈聞く／話す〉ことを主軸とし、目的や条件に応じた文章作成を反復しながら問題点を指摘する方法で授業を進めていく。さらにレポートや小論文等も含め、基礎的な文章表現のルールを確認し、目的に合わせたコミュニケーションの形式を実践すべく、プリントを用いて学習する。なお、『看護学生必修の漢字・熟語』（土屋書店）等から漢字の読み書き小テストを毎時（10分程度）行う。

4. 授業計画

1. 【概論】「言語」とは何か？ 「悪文」とは何か？
2. 【基本構文①】（直接話法と間接話法）（話し言葉と書き言葉）特色と違い
3. 【図化⇔文章化】（表示と表現）（説明と描写）（事実と意見）特色と違い
4. 【情報整理と言語化】メモの取り方
5. 【基本構文②】読解と要約
6. 【表現演習】やさしい表現 配慮表現
7. レポートの書き方
8. 小論文

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（50%）、提出物（20%）、小テスト（20%）、授業での発言及び取り組み姿勢等（10%）

6. テキスト・参考文献

毎時プリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

毎時10分程度の小テストを行うので、事前に配布したプリントの範囲を予習すること。また、配布物が多いので、プリント類の整理をすること。

8. 受講上の留意事項

文章を〈入力〉〈打つ〉ことが定着し、日常的に文字を〈書く〉機会が少なくなっていることから、この授業ではPCは用いず、〈書く〉こと（手書き）中心に進めていく。よってPC等は開かず、またすぐに検索ソフトに頼るのではなく、自己の思考を大切にすること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

添削、講評した課題や提出物などはその都度返却し解説する。また、復習と定着に役立つよう無記名にして様々な解答パターンを紹介する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。